

# 羅針盤

島根県立大学学長代行

山下 一也





# 羅針盤

島根県立大学学長代行

山下一也



## ● 島根県立大学☆ 再チャレンジ計画

はじめに	1
入試改革	3
教育	12
就職	22
自治体・地域・他大学などとの連携	27
地域貢献	31
学生生活	36
国際交流	39
研究	42
広報活動	45
学生の健康管理	49
危機管理	50
大学運営・ガバナンス改革・財務運営	50
働き方改革、FD・SD	52
周年事業など	55
take-home message	56
おわりに	57
付録1	60
付録2	61
付録3	62
付録4	76
付録5	77
付録6	80
付録7	81

## ● 山下フィロソフィ

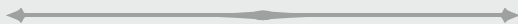
1. はじめに・・・・・・・・・・・・・・・・ 85
2. どうしたらできるのか・・・・・・・・ 87
3. 会議時間・・・・・・・・・・・・・・・・ 91
4. モチベーション・・・・・・・・・・・・ 93
5. コミュニケーション・・・・・・・・・・ 95
6. ワンチーム・・・・・・・・・・・・・・ 99
7. 創意工夫・・・・・・・・・・・・・・・・ 101
8. 努力と情熱・・・・・・・・・・・・・・ 103
9. 基本は現場・・・・・・・・・・・・・・ 105
10. 感謝・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 107
11. リスペクト・・・・・・・・・・・・・・ 113
12. 選択・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 115
13. 新しいぶどう酒は新しい革袋に・・・・ 119
14. 地域貢献・・・・・・・・・・・・・・ 121

## ● 残月

1. はじめに・・・・・・・・・・・・・・・・ 125
2. 短期大学部看護学科から看護学部看護学科・・ 125
3. 大学院修士課程を設置・・・・・・・・・・ 128
4. 大学院博士課程を設置・・・・・・・・・・ 130
5. 大学院実践者養成コースを設置・・・・・・・・ 131
6. 看護栄養学部健康栄養学科・・・・・・・・ 132
7. 認定看護師の養成・・・・・・・・・・・・ 134

# しまね県立大学☆ 再チャレンジ計画

The University of SHIMANE☆  
New start project



はじめに  
入試改革  
教育  
就職  
自治体・地域・他大学などとの連携  
地域貢献  
学生生活  
国際交流  
研究  
広報活動  
学生の健康管理  
危機管理  
大学運営・ガバナンス改革・財務運営  
働き方改革、FD・SD  
周年事業など  
take-home message  
終わりに

## 【はじめに】

『島根県立大学☆再チャレンジ計画』とは、清原理事長・学長が行ってきた6年間の取り組みを踏まえ、地域の課題解決に立ち向かう地域貢献日本一の大学として、新体制で更に挑んでいくために名付けたものである。

現在、第3期中期計画の4年目に入ったところであり、地域に貢献できる大学を構築する最重点項目は、国際的な視野を持ち島根創生を担う人材の育成である。これを中心に県立大学は、地域貢献における研究・教育実践を展開し、シンクタンク機能の役割も担っていくことを考えている。各キャンパスの目標は、以下の通りである。

浜田キャンパスでは、世界に開かれた地域社会の実現と、国際社会の平和的発展に寄与する教育研究を学ぶ。そこで得られた成果を



基に、国際社会に平和と安全のために、尽力する人材育成をする。そして、地域の自律的・持続的発展に寄与する教育研究の成果を幅広く地域社会に還元する。

出雲キャンパスでは、看護学・栄養学の高度な知識と技術の教授・研究のほかに、深い人間愛と倫理観を基盤とした、ヒューマンケアの基本と実践能力を身につけた専門職を育成する。

松江キャンパスでは、地域への知の還元や地域課題解決の支援を通し、地域社会と協働し、文化・福祉の向上に寄与する。短期大学部では、地域における教育研究の拠点として、学生の学ぶ意欲を高め、豊かな人間性を育てることによって、課題探求力および実践力を兼ね備えた人材を育成する。そして、地域づくりへの比重をより高めていけるような魅力あ

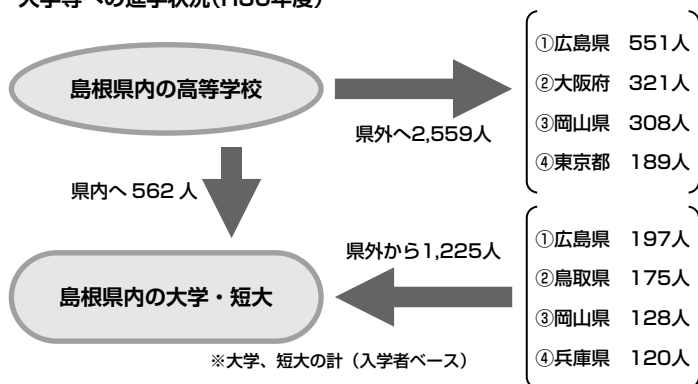
るカリキュラムを推進していく。

島根県では、R2年度から6年度までの県政運営の指針となる『島根創生計画』を策定し、「人口減少に打ち勝ち、笑顔で暮らせる島根をつくる」としている。しかし、例えば中山間地域・離島のコミュニティーをどう守るか、存続させていくかなど喫緊の課題も数多くある。県立大学は、このような地域の難題に教職員・学生が果敢に立ち向かい、以下に述べるように様々な取り組みを推進していく。

### **【入試改革】 <県内率50%>**

入試改革では、入学生における島根県内の比率を広げる、県内枠拡充を最優先で行い、『県内率50%目標』(第3期中期計画)を一つの指標としているが、右図に示すように、県内の多くの高校生が毎年広島県など県外の大学など

## 大学等への進学状況(H30年度)

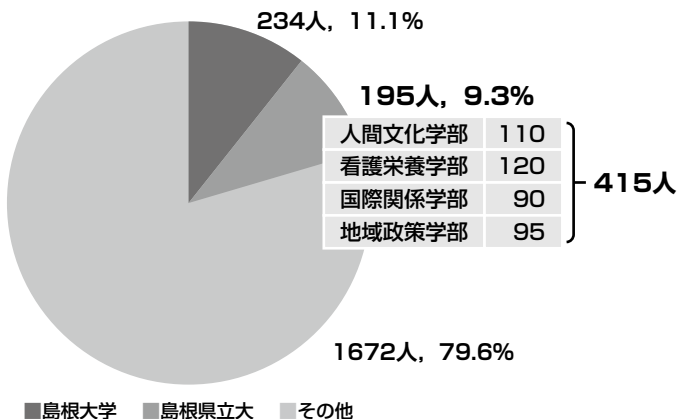


出典：学校基本調査（文部科学省）

に流出している。広島県では広島修道大学、広島工業大学、広島経済大学、安田女子大学などが上位にあげられる（未公表データ）。

R3年度のデータでも、県内高校生の大学等進学者数の80%が県外に進学しており、県立大学と島根大学への進学は各々、約10%となっている（次ページ図）。現状、県立大学を受験した県内高校生の内、240人が不合格（R3年度）になっている。つまり、県立大学

2021年度島根県立高校の四年制大学の進路先 2101人



の不合格者の存在は、若者の県外流出、ひいては県内残留率を低くすることにつながっていると考えられる。『県内率50%目標』は、達成に近づいているものの、未だキャンパス間、学部間の格差は大きい。

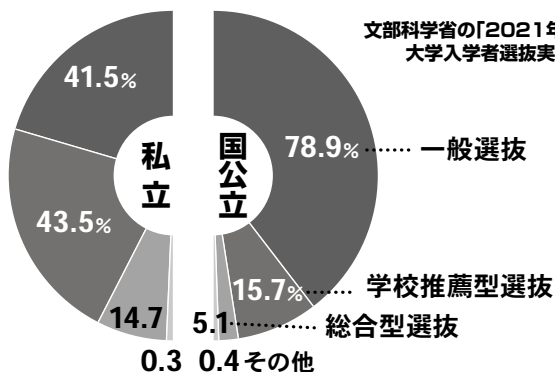
入試改革・高大連携推進室では、R7年度入試に向けた全学方針の検討を行っており、高大連携活動においては『高校魅力化コンソーシアム』への参画や、課題解決型学習等支援

のための学生・教員の派遣、食育をテーマにした高校生との共同農作業を行うなど、更なる連携活動を推進していく。そして、県の3人の高大連携推進員とのコラボ活動も増やし、現在、県教委が行っている進路探求ゼミにも積極的に参加していく。

今後は受験生の安全志向の入試も次第に薄れ、地元志向も落ち着いてくることが予想される。県立大学でも全体に低倍率化の方向に移ると思われる。いまや大学に一般選抜で入学する学生は、定員の半数以下であり、総合型選抜や学校推薦型選抜の人気が出てくるといわれている(次ページ図、9ページ下表)。実際に地方の国公立大学においても、学校推薦型選抜において共通テストを廃止したり、地域枠、女子特別推薦枠(富山大学)など特色を出すところが増えているのが現状である。

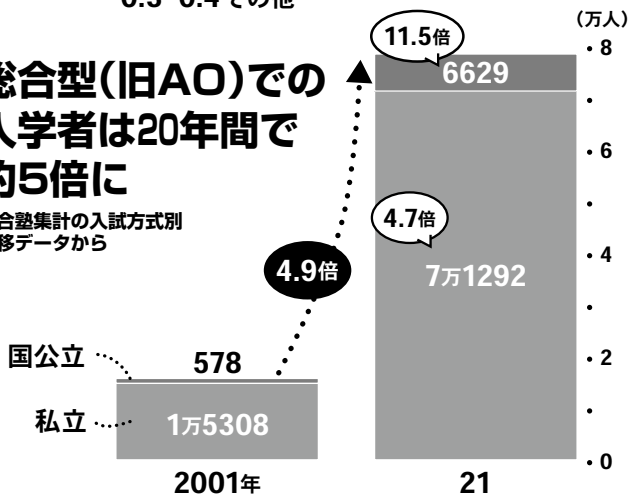
# 私大生の58%、国公立大生の20%が 総合型・学校推薦で入学

文部科学省の「2021年度国公立  
大学入学者選抜実施状況」から



## 総合型(旧AO)での 入学者は20年間で 約5倍に

河合塾集計の入試方式別  
推移データから



Asahi Shimbun Weekly AERA 2022.7.11

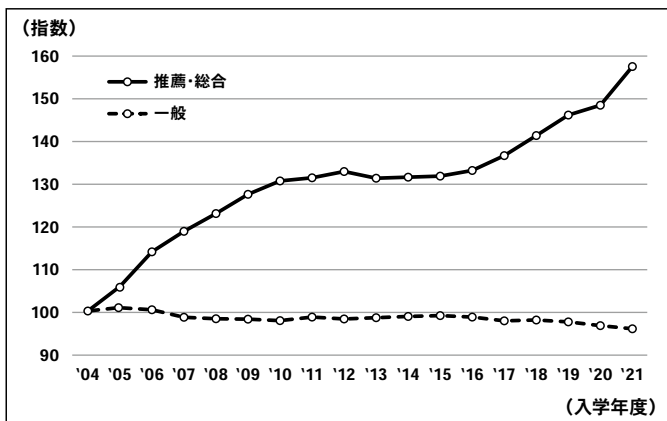
その他、親が四年制の大学を卒業していない生徒を対象とした、ファースト・ジェネレーション枠(東京工業大学など)を設けているところもある。家庭環境は大学など進学先に影響をするが、これらの先行事例を参考にしながら、県立大学独自の入試制度を構築していく。

特に総合型選抜は、ペーパーテストでは測れない能力や適性、学習に対する意欲を多角的に評価・判定する人物重視・多面評価の入試方法であり、現在でも県立大学の一部の学部においては、それぞれユニークな取り組みが行われている。全国的には高大接続改革が挫折しているなかではあるが、今後は連携校推薦「ともに育てる入試」を拡充し、経験と検証を通じて、総合型選抜の拡大を考えていく。次ページ表のように、健康栄養学科では、志願者が減少していく可能性が大きく、総合

## ＜定員比率＞2021年度入試：中・四国地区

中国・四国	募集人員		比率	
	一般	総合・推薦	一般	総合・推薦
叡啓大	10	70	12.5%	87.5%
公立鳥取環境大	150	150	50.0%	50.0%
香川県立保健医療大	45	45	50.0%	50.0%
山口県立大	165	149	52.5%	47.5%
山陽小野田市立山口東京理科大	170	150	53.1%	46.9%
島根県立大	275	185	59.8%	40.2%
新見公立大	112	68	62.2%	37.8%
愛媛県立医療技術大	62	36	63.3%	36.7%
高知県立大	203	117	63.4%	36.6%
高知工科大	335	185	64.4%	35.6%
県立広島大	317	173	64.7%	35.3%
高知大	702	353	66.5%	33.5%
岡山県立大	249	121	67.3%	32.7%
島根大	778	376	67.4%	32.6%
尾道市立大	203	97	67.7%	32.3%
香川大	839	366	69.6%	30.4%
下関市立大	310	130	70.5%	29.5%
徳島大	898	376	70.5%	29.5%
愛媛大	1,299	458	73.9%	26.1%
広島市立大	292	98	74.9%	25.1%
岡山大	1,616	506	76.2%	23.8%
山口大	1,489	428	77.7%	22.3%
鳥取大	907	232	79.6%	20.4%
鳴門教育大	83	17	83.0%	17.0%
広島大	2,015	296	87.2%	12.8%
福山市立大	225	25	90.0%	10.0%

## ＜入学者数推移＞全国



\* 文部科学省「国公立大学・短期大学入学者選抜実施状況の概要」を元に作成  
\* 値は2004年度入試を100とした時の指数



型選抜において山陰枠、島根枠の創設も検討し新たな受験生を発掘していく。

しかし、学校推薦型選抜の応募者で、R4年度入試では5つの学科・コースで定員割れを起こすなど、必ずしも高校側に、県立大学へ生徒を送る機運の醸成が成しえていない。今後は、高校側に十分な教育内容などのシグナルを送り続けるつもりである。

また、浜田キャンパス国際関係学部においては、建学当初のように韓国と島根県の自治体外交が活発な頃は、北東アジア地域研究(NEAR)センターもその役割を成し得ていたが、国際関係学部の志願者はR5年度入試の動向を見ても受験生には敬遠されているのかもしれない。

ところで、次ページ表は横浜市に本部を置く、東洋英和女学院大学という私立大学の入

## 東洋英和女学院大学入学者数の推移

入学者数推移		R4年度 入学者数	R3年度 入学者数	R2年度 入学者数	R元年度 入学者数
人間科学部	人間科学科	111	138	120	150
	保育子ども学科	56	89	96	106
人間科学部小計		167	227	216	256
国際社会 学部	国際社会学科	73	101	103	117
	国際コミュニケーション学科	87	98	110	131
国際社会学部小計		160	199	213	248
大学 合計		327	426	429	504

(東洋英和女学院大学のホームページより引用)

学者数推移である。設置母体、立地条件など  
 県立大学とは全く状況は違うとはいえ、浜田  
 キャンパス、松江キャンパスに似た学科構成  
 を有しており、そしていずれも入学者は減ら  
 しており、R4年度定員の68%まで落ち込ん  
 でいる。一般的にも難関大学以外では、この  
 ような学科では軒並み志願者を減らしており、  
 受験生のトレンドも注視して対応していかな  
 ければならない。

今後、県立大学の特に浜田キャンパス国際

関係学部を志望する高校生には、大学教員が高校生や保護者に対してその魅力やビジョンをアピールし、特徴をあげていくことが重要だと考えられる。国際関係学部の教員や本部職員と、オープンキャンパスを通し、新たなものを生み出す力を求め検討していく。新型コロナウイルス感染症の状況によっては、オープンキャンパスではオンライン個別相談会も導入する。

## 【教育】

IR室において、引き続き学生の学修成果、大学の教育成果、成績評価の信頼性、退学率・卒業率、入試や教育研究、就職、地域貢献などの情報を収集・分析・評価、可視化することにより、戦略的な大学運営を行う。カリキュラムは、『教員中心』から『学生中心』へと教

員が教えたい科目ではなく、学生が学ぶべき科目で構成するように、見直していく。

学部学科改編(魅力ある大学づくり)において、浜田キャンパス国際関係学部では、北東アジアを展望した国際交流人材の育成に努めている。また、地域政策学部では、自治体・NPO・企業で活躍する地域人材の育成を目標にしており、地域政策に対するアプローチ方法について理解を深めている。

北東アジア地域研究(NEAR)センターは、H12年の県立大学の建学時に、北東アジア研究を大学の特徴とする考えに基づいて創設され、人間文化研究機構の地域研究推進事業『北東アジア地域研究』の研究拠点の一つに選定されるなど、多くの業績を残した。しかし、現在の県立大学を取り巻く情勢を鑑み、当初より積み立てられている予算の終了を持ってR4年

度に、その役割を終える。

出雲キャンパス看護栄養学部(別科)では、「島根の地域医療」において、県内10カ所の様々な地域(中山間地・離島など)で、フィールドワークを実施し、生活と文化の特性に触れながら、看護職・管理栄養士との連携や、協働の実践を通し、住民の暮らしと地域医療への理解・関心を深めている。特に看護師教育については疾患を診るだけでなく、患者が大切にしていることや家族、生活などの社会的背景を尊重できる医療が提供できるようにする。次の2点において特に検討していく。まず現在、保健師養成のカリキュラムでの保健所実習の時期が、進路が既に確定した4年次の秋であり問題点も多い。次に健康栄養学科では、栄養教諭の需要も少なく、これについてのカリキュラムも検討を要する。

松江キャンパス人間文化学部では、地域の保育教育人材の育成、地域文化資源活用人材の育成を目標としている。保育教育学科では、保幼小接続期を見通した教育に強い人材を育成するため、幼稚園教諭1種と小学校教諭1種の免許取得を可能としている。その取得状況は、まだ少ないが、保育教育学科では、特別支援教育、インクルーシブ教育に強い人材を養成するため、特別支援学校教諭1種の免許取得を可能としており、R3年度は26人が幼稚園教諭1種や小学校教諭1種免許に加えて、特別支援学校教諭1種の免許を取得している。

隠岐島前高校では、新時代に対応した高等学校改革推進事業を行っており、普通科改革、魅力化コーディネーターによる探求学習など、学校と地域の関係性を深め、地域づくりに高



校生が参加している(前ページ写真)。ここで、地域づくり、ローカル人材などの学習に対する受け皿を設けるべく、浜田キャンパス地域づくりコースのほか、更に浜田キャンパスに、データサイエンスなど、文系、理系の枠を越えて教える文理癒合の経営情報系のコースの新設を検討する。またこの学科は高専からの編入ルートを設ける。R5年度には、地域文化資源発信人材の育成に則して、松江キャンパスに短大部文化情報学科が開設され、将来のIT人材育成へと繋げていく。デジタル技術を駆使した新規ビジネス創出や業務の効率化を加速することが不可欠であり、それを担うデジタル人材の育成を急ぐべきである。

大学院において、浜田キャンパス北東アジア開発研究科では、コロナ禍のため、十分な国際交流ができず、入学定員割れでもあり、



国内進学組が少ないという問題点がある。院生の就職先確保も難しく将来への不安が博士課程の人気薄にも繋がっており、中期計画にも記載のある「浜田キャンパスの新学部学科の完成年次に向けた大学院再編の検討」を始める段階である。

一方、出雲キャンパス看護学研究科では、臨地の看護師、保健師、助産師、専門学校・大学の教員を学生として受け入れ、それぞれが、社会的ニーズに合った看護を実践している。その中で、課題となったことについて、研究指導教員の指導のもとで研究計画を立て、研究倫理審査委員会の審査を受け、研究活動・課題研究活動を行っている。

また、助産師養成では、別科と大学院博士前期課程高度実践者養成コース助産学領域との2本立てで行っている(同様のコースは福島

県立医科大学R5年設置予定のみ)。出産への希望は多様化し、出産後の母と子のケア、不妊治療カップルへのケア、思春期世代の健康教育、更年期以降の女性の健康など助産師に期待される役割は増えている。定員2人であり学習効果なども狙い、今後、島根大学大学院助産学コース(定員3人)との連携を多面的に検証していく。

診療看護師(NP)プライマリ・ケア領域では、特に中山間地域・離島を中心とした在宅医療を支える人材不足に対応するため、診療看護師(NP)を毎年2人、輩出している。R6年度から医師の残業規制が始まり、長時間勤務医師に対する面接指導が義務化される。今後、タスク・シフティングにより診療看護師(NP)へ代替する業務が増える可能性もあり、診療看護師(NP)に遠隔医療の人工知能(AI)を組み

合わせれば、医師の少ない中山間地域・離島地域の地域医療・在宅医療に大きな役割を發揮できるものと考えられる。

人生100年時代の健康長寿を支えるスマート社会の実現に向けて、看護学研究科では地元創生看護学の立ち上げを行ってきたが、この中身について更に充実していく。一方、学士号取得後に大学院に進学することは、生涯において価値があるのかについてわかりやすく可視化していく。

健康寿命延伸のための食環境整備に関わる高度人材養成は、高齢者県である島根県では非常に重要な課題ともいえる。島根県の地域住民の食生活改善につながるようなテーマ研究ができる大学院研究科の開設の可否を今後、検討していく。

新型コロナウイルス感染症対策の強化や、

今後の新しい感染症などへの対応を見据え、感染管理分野の認定看護師の養成をR5年度よりスタートする。また、今後は臨床現場での経験を重視し、現場と大学の2つの視点から、地域全体の医療を見ることができるようにも、県立大学の訪問看護ステーションの開設をニーズがあるかどうかなどの市場調査を含めて慎重に検討していく。

教育の質の保証については、常に教育改革を念頭に置きながら、全学部で自己点検評価委員会を開催し、PDCAサイクルを回していく。そして、厳格な成績評価の仕組みを整え、学生による授業評価アンケート 100%(特にR3浜田キャンパス34.9%からの改善)、教員相互による授業参観、シラバスと授業内容の整合性の点検などを行っていく。

また、フィードバックレポートを基にして、

授業改善を後押ししていく。予習・復習、課題レポート、各種テスト、授業に関する質問など、授業を補完できるシステムを今以上に改良して、より学びやすい学習環境を提供し、学びたい学生の意欲を刺激し続けていく。

### 【就職】 <県内就職率 50%>

県内就職支援では、県内就職率目標50%（第3期中期計画）（R3年度卒業生県内就職率49.5%）に近づいており、R3からR4にかけて県内就職者が110人増である。これは、人間文化学部、看護栄養学部健康栄養学科の新規卒業生が出たことが大きいですが、一方で、浜田キャンパスでは24.7%と未だ低い状況にある。今後、県の人材確保育成コーディネーターとも連携をとりながら数値目標を達成したい。

現在、県内企業（TSKグループ、島根電工、

カナツ技建、山陰ケーブルビジョン)の寄付で、県内就職希望者に独自奨学金(しまね未来人財奨学金)が創設されており、この範囲を県下全域に広げていく。

R4年度から島根電工では、長期有償インターンシップを開始していただいている。ほかの企業でも検討されており、引き続き推し進めていく。学生たちが、職業や労働に対するリテラシー(理解・解釈し表現する能力)や、意欲を高めることは、県内企業にもメリットがあると思われる。学生の中には、会社の規模や知名度に惹ひかれ、就職先を選ぶ人もいる。積極的にインターンシップに参加し、仕事の実態や自らの適性を見定め、どんな職に就きたいのかを幅広い観点から考えさせていく。

一方では、キャリア教育の新形態とされる

「コーオペ教育(Cooperative Education)」を大学主導で、勤務内容の調整や事前教育を大学側が行い、就職活動を支援していく。

県内すべての商工会議所、商工会と連携協定締結されており、今後は地元信用金庫、銀行などへも、その範囲を広げたい(下写真は松江商工会議所との連携協定締結式)。公務員試験対策講座についても、他大学並みに充実させていく。



出雲キャンパスのオンラインマルシェの開設は、看護栄養系の地元就職への貢献度が、高いと考えられる。昨年度実績からすると、邑智病院、加藤病院、雲南市立病院、松江医療センター、松江記念病院などへの就職は、マルシェの影響と考えられる。更に県立中央病院、済生会江津病院、邑智病院への就職の推薦採用枠も開設した。高齢化社会を迎え、県内の看護師不足は、より深刻になると予想されている。県の保健師の就職や、中山間地域・隠岐地域への看護師就職など、オンラインマルシェを更に充実させて、県内全病院とネットで結んでいくことを考えている。

松江キャンパスでは企業PRブースの設置もR4年度から開始し、就活イベントをこまめに行っている。また、松江キャンパス短大部保育学科では、地域保育人材の育成において、



多くの県内就職がなされているが、今後、保育士不足の課題を抱えている石見地域、隠岐地域などへの就職を強化していく。一方で、保育バブルは終焉を迎えつつあるとも言われるが、市役所などへの就職もなされており、幅広く就職先は考えていく必要がある。県内の小学校教員は今後も約100人程度、特別支援学校も約10人程度の不足が見込まれており、教員志望者の増加について県教委などとともに働きかけ、十分に期待に応えていく必要がある。

出雲キャンパスの国家試験合格率は、看護師が97.3%、保健師が95.2%、助産師は100%、管理栄養士97.7%であり、いずれも高水準であるが、一方で不合格であった学生への指導体制も構築していく。

今後米国の景気後退が現実味を帯びてくる

と、R5年度には、わが国も景気後退の局面を迎えるかもしれない。コロナ禍では、飲食・宿泊業に悪影響が限定的であったが、堅調な業種にも影響が及ぶ恐れもあり、今から就職への戦略を考えておく必要がある。

### **<自治体・IT会社などとの連携協定>**

#### **【自治体・地域・他大学などとの連携】**

地域と連携した人材育成における、地域づくりへの貢献は、県立大学の使命の根幹をなすところである。浜田キャンパス地域政策学部地域づくりコースは、自治体・地域と連携し、県内各地で自治体連携フィールドワークを実施している。出雲キャンパス看護栄養学部は、隠岐、その他県内地域で実習、地域連携教育研究を実施している。

県内ほとんどの自治体と連携協定を結んでいるが、その他の市町とも連携協定を推し進

め、残りの町とも早期に協定締結に繋げていく。

R5年度には、地域文化資源発信人材の育成に松江キャンパス短大部において文化情報学科が開設されるが、将来のIT人材育成へ県内のIT会社や島根県情報産業協会などとの連携を推進していく。

未来アトリエ事業(R4.6月)として、安来市と連携し『YASUGI未来アトリエ』事業(安来高校、情報科学高校の高校生、県立大学生、地域の社会人が交流)を始め、大田市大森地区では『大森まちなか図書館』(R4年度内開館予定)を開設し、地域活動が始まる(次ページ写真上)。大森地区は、日本の原風景や遺産に触れたいという人々の期待に応えられる街並みだと思われる。

また、浜田市、益田市、雲南市などにおい



でもサテライトキャンパスを予定しており、地域活動を本格化していく。

前述の地域だけでなく島根県のような地域において、健康、栄養、観光など3キャンパスをあげて様々な視点に立ち、学際的な取り組みを生んでいきたいと考えている(左写真下、地域での検診風景)。

最近、全国の大学では大学間の単位互換、複数大学の連合体や『コンソーシアム』の組織化、大学の合併・統合の構想や計画、大学と短大・専門学校の提携や学生の相互間移動など、学校と学校の間をヨコにつなぎ、ネットワーク化を目指す、新しい動きが出てきている。県立大学は、これまでも島根大学と『しまね産学官人材育成コンソーシアム』『ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ』などを通じて連携を行ってきたが、学部での養

護教諭養成、大学院での助産師養成、あるいは島根県の教員養成の面などでの連携も検討していく。また、H30年6月に、成蹊大学と包括連携協定を締結し、津和野町にて合同ゼミ合宿を行ってきたが、R5年度には、出雲キャンパスで、法政大学大学院での科目を行う予定もあり、今後とも様々な大学間の連携を拡大していきたい。

### **【地域貢献】 <地域づくりへの貢献>**

地域での公開講座は、幅広い世代の方々に県立大学の持つ教育・研究成果を広く地域社会へ開放し、社会人の学び直し(リスキリング)、リカレント教育、生涯学習の機会を提供することを目的とした取り組みの一環として引き続き行っていく(次ページ写真)。コロナ禍でもあり、状況によっては、ケーブルテレ



びやオンラインでの公開講座も組み合わせて行い、良質なオンライン公開講座を目指す。

R3年度に3キャンパスの教員が実施した地域貢献取組数は、合計で612件(浜田キャンパス213件、出雲キャンパス167件、松江キャンパス232件)であり、中期計画で掲げている目標値(600件)を上回っている。さらに、対象なども考慮しながら、上積み可能と考えら



れるので努力していく。

R6年4月に、出雲キャンパス東側に出雲市が新体育館を開館予定している(上写真)。出雲市新体育館に係る意見交換会に出雲キャンパス教員も参加しており、開館後の運営についてもミズノ(株)(運営予定業者)などと共同して、出雲市へ提言していきたいと考えている。これを機に、様々な機能性素材(特定保健用食品など)あるいは栄養素を運動前、運動中、



運動後、就寝前、起床後、朝食後、間食など、どのタイミングで摂取するかの研究を行い、アスリートや競技指導者などの間にようやく浸透しつつあるスポーツ栄養学を学べる大学の可能性も探っていく。

地元産品を6次産業化し、付加価値の高い商品にすることを新たに推進していく。この取り組みは、3キャンパスで行われており、また一部の高校の探求学習の課題にもなっている。教育、研究、地域貢献、いずれの面からも非常に効果が大いと考えている。例として、右写真のように出雲キャンパスでは、地元の醤油会社との連携で、



川本町のえごま生産業者のえごま油を原材料にしたえごま醤油を実際に、商品開発して販売している。

IT技術の発展により健康状態をデータで取得できるようになったことで、健康維持・管理を行う「ヘルスケア」のニーズが高まっている。今後ヘルスケアビジネスへの参入も視野に入れる。また、中山間地域・離島など医師不足が大きな課題となっている地域で、医療 MaaS(マース：Mobility as a Service)の導入への研究も推進する。

「しまね地域マイスター」認定制度はR3年度に浜田キャンパス2人、出雲キャンパス8人が認定されており、今後も、この制度を維持していく。地域貢献奨励金は、R4度には3キャンパスで44件もの応募があった。学生が県内の学外組織と連携し、地域活動を行い、

地域活性化を目指すものであり、学生を地域に送り込む仕組みとしては非常に機能しており、この奨励金は今後、増額も考えていく。

従来より開催している『KENDAI縁結びフォーラム』は、教員および学生の取り組んだ地域課題に関する研究や地域活動の成果を発表する機会である。このフォーラムも定着しており更に進化させていく。

松江キャンパスで行っている放課後児童クラブの学習支援を拡大していく。

また、浜田キャンパスで行われている市民研究制度については、この制度をしっかりと存続していく。

## 【学生生活】

学生生活では、『スチューデント・ファースト』を理念に、現行のチューター制度を維

持しつつ、サークル活動、ボランティア活動の支援を十分に行っていく。多様性を重んじ、一方では個別性を尊重する大学に向けて努力していく。

現在、高等教育の修学支援新制度として「国の減免制度」があるが、授業料免除制度(県立大学独自の授業料免除制度)を創設し、国の減免制度とは審査基準を違えて、両方に申請することができるようにしたい。

大学ランキング2023(AERAムック)によると、県立大学は高校からの評価ランキングで「面倒見の良い大学」の31位であった。この強みを活かして更に学生生活においては、学内に、日々の快適な大学生活を提供、理想的な教育・研究環境をサポートする、すなわちアメニティ施設の充実を検討する。例えば、出雲キャンパス・松江キャンパスにおいては、

学生食堂を展開している企業による充実した食堂や売店を誘致に努力する。

浜田キャンパスでは「かなぎシェアハウス」、出雲キャンパスでは「とびっこハウス」、「すずかけ荘」と、古民家改修のシェアハウスに学生が入居している。今後、民間が行った古民家を改修したシェアハウスに学生が入居できるように積極的に推進していく。

また、出雲キャンパスにある、ローターアクトクラブ(親クラブ：出雲ロータリークラブ)を他の2キャンパスにも拡大し、キャンパス間の学生交流を行っていく。

H21年10月26日に、浜田キャンパスの女子学生平岡都さんが行方不明になり、その後11月6日に広島県と島根県の県境に近い広島県北広島町の臥龍山山頂付近において遺体で発見された事件が起きた(島根女子大生死体遺棄

事件)。長らく未解決であったが事件から7年  
が経ったH28年12月、捜査機関は、事件直後  
に事故死していた人物が被疑者であると特定  
した。この事件は、学生の安全安心な大学生  
生活を大きく揺るがすものである。平岡都さん  
記念花壇『Garden of Hope』の手入れを行い  
ながら、今後もこの事件を風化させないよう  
にする。

### 【国際交流】 <国際交流の推進>

国際交流では、3キャンパスともに、それ  
ぞれ長い歴史(右写真は大邱韓医大学訪問時の  
写真、H30年11月)があり、新型コロナウイルス  
感染症の影響により対面での交流事業が、  
ほとんどできていなかったが、R5年度から  
は対面での交流が再開できる運びである。そ  
のため早めに相手方の大学、学内関係部署と

の協議を行い、以前のような国際交流事業を通じてグローバル(グローバル)人材育成の促進を図っていく。昨今の大学生は内向き志向になりがちであるが、海外への派遣学生数は、目標の年間180名以上(R3年度実績7人)を目指し、3キャンパスにおける留学希望者への支援や、海外実践活動支援制度『グローバルドリームハント』など、オンラインを含めた学生の各種プログラムへの参加の呼びかけも



強化していく。

出雲キャンパス・松江キャンパスには、学内にて英語を遊びながら、英語を楽しく学ぶことを目的に、『英語村』を開設する。また江津市にある、外国人の日本語学校「はなまる日本語学校」との交流(写真)を通じて、異文化理解や多文化共生についての課題や支援策を模索する国際交流の新たなシステムを考える。







## 【研究】 <科研費申請の徹底>

しまね地域国際研究センターにて、島根県が抱える地域および国際的な課題に関する研究の助成金制度を拡充して公募を行い、『KENDAI縁結びフォーラム』において、研究成果を地域に還元するとともに、自治体、県内企業、NPO法人、中山間地域研究センターなどの各機関との連携を強化している。

外部資金獲得では、3キャンパスの科研

費申請率(新規)は、33.6%(浜田キャンパス23.3%、出雲キャンパス58.1%、松江キャンパス17.9%)で、採択率は19.0%であり、まだこの点においては、改善の余地は残されている。参考資料として全国の応募件数、採択件数、採択率の推移を次ページ図に示すが、基盤研究(C)を取り上げてみると、全国平均28.2%であり、まだ研究の奨励を促していく必要がある。但し、採択率からすると、人文社会系の採択率も低くはなく、このことは県立大学の科研費申請率が低い理由にはならないと思われる。

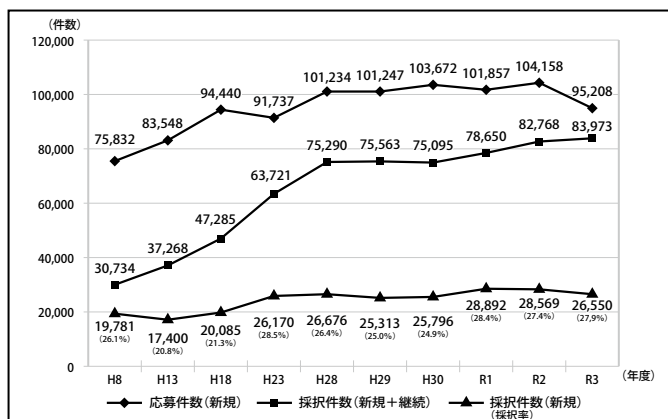
今後、外部の専門業者による科研費申請書レビュー・アドバイスサービスであるロバスト・ジャパンの支援や、『科学研究費説明会』および『研究力向上セミナー～科研費獲得に向けて～』を開催していくが、その他、浜田市、益田市など自治体との共同研究についても積

極的に行っていく。

また、競争的資金の公募に積極的に応募して申請を多くしていく。大きな公募には教職員の戦略検討チームを編成する。

本来、地域貢献は学際的な要素が大きいもので、3キャンパスの教員がお互いに研究面において交流を持ち学際的研究ができるように企画していく。

### 科研費の主な研究種目における応募件数、採択件数、採択率の推移



令和3年度においては、「特別推進研究」、「新学術領域研究(研究領域提案型)」、「計画研究及び公募研究」、「学術変革領域研究(A)」、「計画研究及び公募研究」、「学術変革領域研究(B)」、「計画研究」、「基盤研究」(特別分野研究を除く)、「挑戦的萌芽研究」、「挑戦的研究」(特設審査領域を除く)、「若手研究」、「研究活動スタート支援」及び「国際共同研究加速基金(国際共同研究強化(B))」について集計・掲載。

## 【広報活動】 <広報の戦略化>

広報推進室では、特設サイトや大学案内、新聞広告、テレビCMといった既存媒体に加え、鼎談番組や、キャンパス紹介番組を企画、実施している。特色ある授業やゼミ活動、課外活動など、これからも質の高い大学の魅力を積極的に情報発信していく。選ばれる大学になるための大学ブランディング戦略を広報推進室とも考えていく。広報誌『ORORIN』は、県内高校生全員に配布し、キャンパス所在地である浜田市・出雲市・松江市の自治会で回覧することで、広く県民に情報を届けてきた。更にSNS(交流サイト)を活用した広報活動・ホームページの刷新を行っていく。

TVのコマーシャル作成については「県立大学を卒業したら、どのような人間に成長していけるか」の視点で、シリーズ化できたらと

考えている。卒業生の声や地域の情報を『仕事図鑑』（仮称）という冊子として作成し、大学生だけでなく、高校生や中学生にも配布して地元就職を促す。これは教員・学生と地域を媒介するためのツールとしての役割を果たすと思われる。

一方で、R4年度は中止になったが、下写真のようなタウンミーティングを出雲キャンパスでは島根県各地で行っており、地域住民



と県立大学との交流を育ててきた。このタウンミーティングも引き続き行い、より近い距離で県民と触れ合っていく。

また、大学のオリジナルグッズ(不織布A4フラットトートバッグ、ボールペン、マルチメモ、Tシャツなど)を製作し、3キャンパス内に各オリジナルグッズコーナーを設けていく。

出雲キャンパスで、地元ラジオ局エフエムいずも80.1MHzのラジオ番組『IzuキャンLife』(毎週金曜日20時30分～21時00分、30分間の録音放送)も開設以来8年の長きにわたって継続している(次ページ写真)。県立大学ホームページ上でも聴くことができ、今後も大学からの発信ツールとして活用する。

「社会に開かれた質保証の実現」の鍵となるものは、何よりも適切な情報が公表されていることである。各キャンパスからの積極的



な情報公表として、認証評価の結果や、その他の必要な情報が、社会が利用しやすい形で、適切に公表されていることが求められ、ホームページ上において公開していく。

現在、月1回の定例記者会見を浜田キャンパスにて行っているが、出雲キャンパスでも同様の記者会見が可能かどうか検討していく。

## 【学生の健康管理】

来年度に関しても、新型コロナウイルス感染症については、同様な感染状況が依然として今後も続いていくものと予想される。引き続き、新型コロナウイルス感染症へは基本的な感染予防策を徹底していく。

メンタル面の不調を訴える学生も多く、退学の進路変更の原因にもなりやすい。特に新生は、入学後の環境変化も大きいことから、新生活への悩みを抱え、不安やうつ傾向が多い。各キャンパスの保健管理委員会がメンタル面の不調の早期発見や治療、支援に向けての取り組みを積極的に推進していく。

近年は、聴覚や視覚など、若い世代から感覚器の低下が見られる。ヘッドホンや、イヤホンで音楽を聴く、スマートフォンの操作や、オンライン授業などの影響と見られる。生活



習慣改善について、各キャンパスの保健管理委員会から発信していく。

### 【危機管理】

新型コロナウイルス感染症への対応については、今後の方針は、現状どおり3キャンパスの危機管理委員会にて行うが、各キャンパスの状況も考慮し、それぞれの柔軟な対応を行うことを応援する。学外での医療機関、教育機関などでの実習がある場合は、相手方と実習期間を協議の上、対応をとる。

### ＜キャンパス毎の自律性＞

### 【大学運営・ガバナンス改革・財務運営】

ガバナンス改革として、3キャンパス副学長の学長指名性を実施し、また、各キャンパスの自律性を尊重し、理事長の下に「人事基本問題委員会」を設置し、3キャンパスの教

員ポストを一元的に管理する。現行の県立大学魅力化推進室の視点から、学修成果や教育効果について、データを分析し可視化ができていないので、県立大学が育成する人材像をより明確に示せるように協議する。

各キャンパスの副学長、学部長による目標管理面接を毎年実施し、様々な課題の認識とその対応をしっかりと把握してもらい、大学運営についても総力戦で行う。各教員は達成目標(なるべく数値化)と行動目標の2つを立て、そのプロセスと実績を評価対象とする。

DX(デジタルトランスフォーメーション)の取り組みを加速させ、文書の電子化によるペーパーレスやオンライン会議、申請決裁システムの自動化、学生支援・学生の健康管理や卒業生情報なども検索できるようにする。

県立大学の予算編成では、教員人件費の割

合の抑制を念頭に置きながら、スクラップ&ビルドの徹底において、自己財源の充実を図り、引き続き『島根を創る人づくり』事業を推し進めていく。島根県立大学未来ゆめ基金などへの寄付もしっかり県民の皆さまにお願いしていく。

理系学部の志願者増の傾向はR4年以降もデータサイエンス系学部・学科の新設ラッシュが起こり、今後一層強まるかもしれない。AI活用、データ分析、サイバーセキュリティ対策を扱う先端IT人材の育成できる新学部の設置も考える。

### 【働き方改革、FD・SD】

教職員の働き方改革は、重要なテーマである。ワークライフバランスを重要視し、教職員の勤務の適正化に向けた取り組みとともに、

ハラスメントやメンタル不調などへの対応も進めていく。特に、職員の増員を図りながら、職員主導による高大連携、キャリア支援を充実させていく。また、教員の働き方改革も含め、学部の一部に、現在の Semester 制(2 学期制)に加え、Quarter 制(4 学期制)併用の導入も検討する。

一方で、新型コロナウイルス感染症への対応などにより教職員の負担が増す中、講義のオンライン化が進み、業務の効率化を生み出すなど、教職員に意識の変化を促す契機にも繋がっている。そうした、意識改革の機運を継続しながら、大学教育の更なる充実のため、デジタル技術を活用した業務の効率化を進めていく必要がある。

また、適切かつ最適な FD・SD を組織的かつ、体系的に実施していく必要がある。FD・SD は、

学修成果・教育成果の把握・可視化により得られた情報の共有、課題の分析、改善方策の立案など、実際に教育を改善する活動として位置付け、実施していく。現地での研修(例：隠岐島前高校の探求学習の見学など)に加えて、オンラインFD・SD研修も積極的に行っていく。

仕事の目的、背景をしっかりと説明した上で、一人ひとりの価値観を尊重し、仕事の進めやすさなどに関係なく、教職協働にて平等に仕事が分担できるような、マネジメントを心がけていく。教員と事務職員の関係を強めながら、施設・設備の面へ新たな大きな投資の必要を求めず、これからは大学の中身の充実を行っていく。

## 【周年事業など】

3キャンパスにはそれぞれ創設以来の歴史があり、温故知新、周年事業などについては個々に大学として検討していく。例えば出雲キャンパスでは、看護学科はS26年島根県立看護学院設立(2年課程)から数えて、本年創立71年、健康栄養学科も短大時代から創立70年を迎えている。現在まで多くの医療関係者、栄養士・管理栄養士を輩出しており、R5年度に記念事業を計画する。出雲キャンパスの大学の将来を教職員が振り返りながら次の10年を見据えて考える良い機会ととらえている。

県立大学に関わる卒業生、在学生の保護者とのネットワークの構築を3キャンパスそれぞれで行っていく。住所などの情報提供をお願いし、大学サポーターとして県立大学についてより良く理解を得るため、公開講座情報

や、大学の行事などをメールでお知らせするシステムを構築する。

R12年度の温暖化ガス46%削減(H25年度比)に向け、各業界が一段と踏み込んだ対応を求められている。省エネについて、各キャンパスからの提案を求めていく。

### **【take-home message】**

#### **【なぜこの大学があるのか】**

島根県の唯一の公立大学として、『島根創生計画』の「人口減少に打ち勝ち、笑顔で暮らせる島根」の実現を県とともに目指し、県内学生の入学と県内就職を高め、地域貢献日本一を目指す。

#### **【この大学はどこに向かっているのか】**

「島根創生を担う人材の育成」を基本路線とする。島根県では少なくとも向こう数十年間

の人口減少は確定的であり、人手不足、人口減少、交通、医療、学校教育、外交課題など数多くの課題に対して、県立大学の持っている知の資源を生かし、県民に役立つ大学としてシンクタンク機能を保ち理論と実践を発揮する。

### 【この大学はどう生きていくのか？】

3キャンパスの歴史、自律性を重んじ、質の高い大学教育を学生に提供し、また国際交流も活性化させ学生の多様化を目指し、県内に存在意義をしっかりと認められる大学になる。

### 【おわりに】

島根県の『島根創生計画』の中にも、県立大学の役割についての記述がいくつもある。「人口減少に打ち勝ち、笑顔で暮らせる島根」の



実現を県とともに目指し、これまで述べてきたことを実施していく。

R6年度には、第三者評価(認証評価)を受ける必要があり、また毎年、島根県公立大学法人評価委員会から評価を受けている。R元年度に受けた認証評価や、今年度の法人評価委員会からの指摘事項をしっかりと改善していく。

最後に、理事長・学長のリーダーシップであるが、まず、相手に奉仕し、その後、提案型のスタイルで相手を導く支援型の『サーバントリーダーシップ』を心がけたい。部下の能力を肯定し、お互いの利益になる信頼関係を築くスタイルのリーダーシップ実現のためにも、教職員との対話を心がける。また、教職員研修を積極的に推し進めて、教職員からの建設的な提案を重視し現場主義に徹し、入

試やキャリア担当者は、できる限りジョブ型の人事を考えている。学内の不正や矛盾に気づいたら、遠慮なく指摘して欲しい。

清原理事長・学長が推し進めてきた『島根創生を担う人材の育成』を基本路線として継承していき、既存事業と新規事業の両立に取り組むいわゆる「両利きの経営」戦略で臨みたい。島根県立大学が、島根県の永続的な発展に、なくてはならない存在になるよう努力し、島根県に貢献できる力を高めていきたい。



## 【付録 1】

— 地域の課題解決に立ち向かう地域貢献日本一の大学を目指して —

## 島根県立大学☆再チャレンジ計画

### STEP 1

#### 入試改革

### 県内率50%

- ・島根県内高校生の大学等進学者の80%が県外に進学、県立大学受験の県内高校生240名が不合格(R4)の状況分析
- ・学校推薦型選抜の定員充足
- ・総合型選抜入試の拡充
- ・高大連携の推進
- ・広報の戦略化

### STEP 2

#### 県内就職支援

### 県内就職率50%

- ・県内就職希望者に独自奨学金(しまね未来人財奨学金)を発展
- ・長期有償インターンシップの拡充

### STEP 3

#### 人材育成

### 地域づくりへの貢献

- ・「YASUGI未来アトリエ」「大森まちなか図書館」、津和野未来塾など継続し、3キャンパスが参加し発展
- ・データサイエンス教育プログラムを展開し、地域づくりに関連したコースの検討
- ・自治体・IT会社などとの連携協定
- ・国際交流の推進

### STEP 4

#### ガバナンス改革

### キャンパス毎の自律性

- ・「人事基本問題委員会」を設置、全学の教員ポストを一元的に管理する。
- ・県立大学魅力化推進室での「島根を創る人づくり」事業の活性化
- ・科研費申請の徹底
- ・短大部文化情報学科にIT企業役員を兼業教員で採用。今後実務家教員の採用を増やす
- ・教員人件費の割合を抑制、外部資金の獲得、スクラップ&ビルドの徹底

最重点項目は **島根創生を担う人材の育成**

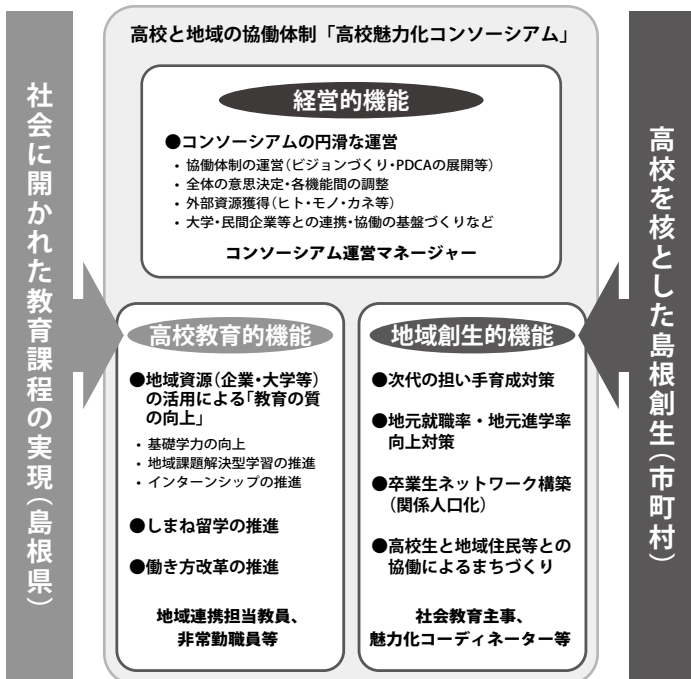
これを中心に研究・教育を通した地域貢献を展開する

## 【付録 2】

### 島根県の高校魅力化コンソーシアムについて

#### 「社会に開かれた教育課程の実現」と 「高校を核とした島根創生」

「社会に開かれた教育課程の実現」と「高校を核とした島根創生」の持続可能な好循環を生み出すためには、次の3つの機能を備える高校と地域の協働体制「高校魅力化コンソーシアム」の構築が必要



## 【付録3】

### 出雲キャンパス卒業生の声(一部改変)

《》内 卒業年、勤務先、ペンネームなど

01)日本だけではなく海外の研修のカリキュラムがあり、海外に行く機会をつくっていただきました。研修を通して、他学生との交流や異文化を知るきっかけとなりました。そして、視野が広がり様々な学びに繋がったのでとても学生生活が充実していました。  
《島大病院勤務、もも》

02)学生ラウンジなど自由に使えるスペースがきれいに保たれており、在学中は学生同士の交流の場として使用することができ良かったです！《病院勤務》

03)コロナ禍で大変ですが、学部も増え、つわぶき祭などイベントも活発になったように感じます。アパートやスーパーも近くに出

来て大学生生活も充実できそうです。《R3卒業  
(県外生)出雲そばファン》

04)近くにコンビニやスーパーもでき、最近は一  
アパートもいくつか新しいものも建ってい  
るみたいなので、車を持ってない人でも通  
いやすく暮らしやすくなっていていいなど  
思います。また、学食も安くて美味しいの  
で、大学生活では大変お世話になりました。  
大学では初めての一人暮らしで何かとお金  
はかかっていたので、学業だけでなく生活  
面でも支えて貰えたことは、とても有難かっ  
たです。《R3年度卒業、県内病院勤務、院生》

05)自然に囲まれた大学でとてもゆったりと大  
学生生活を送ることができました。私たちが  
在籍中にコンビニができたり、今ではマッ  
クスバリューがあったりし、大学周辺も賑  
わって来ており暮らしやすくなってきてい

ると思います！大学内にカフェなどがあれば、珈琲飲みながら勉強もできて良かったかなと思います。《楽しいこと大好き女》

06)自然に囲まれたキャンパスで、先生方との距離も近く、県外出身でも過ごしやすい環境でした。栄養学科では、学年が上がるにつれ臨床的な内容が主となってくるため、食品関係への就職を考える際は、自分でさらに知識を高める必要があると感じました。しかし、看護、栄養の交流があるので、色々な面から物事を考える力をつけやすい環境だと思います。《R4卒業、食品メーカー勤務、ぷーわ》

07)過ごした4年間の大学生活はあっという間でした。熱心な先生方からのご教授があったからこそ、この逼迫した現場でその思いを引き継げていると感じます。卒業後も先生と繋がり、医療について話し合いができ

る関係性は、本大学の良さだと改めて感じております。《社会人入試者》

08)最近スーパーが少し近くにできたと聞いて、とても生活しやすそうだなと思いました。私たちが在学中に意見として出ていたのは、主要銀行の ATM(ゆうちょ、各種地方銀行等)があると、もっと便利になりそう！ということです。今後も母校や周辺の充実がありそうで楽しみです♪《R2卒業、県外市役所保健師勤務、なかちー》

09)栄養学科の増設に伴い、図書館がリニューアルされた事で、以前より明るく使いやすくなりました。卒業後も、図書館を利用させてもらえて就職後の自己研鑽に役立っています。《H29卒業生》

10)図書館が専門書から一般図書まで幅広く取り揃えてあって、在学中はとても助かった



のを覚えています。要望としては24時間パソコンが使える環境があるといいなと思います。パソコンを持っていない友人がとても苦労していたので。《3年目看護師》

- 11)就職後の保健師活動で生かされている【学生の時の学び】を述べたいと思います。

◆母子保健活動／グローバルドリームハントを利用し、フィンランドの子育て支援や県外の子育て支援について学んだことで、他の保健師よりも前提知識が豊富になりました。自治体の母子保健システム構築に生かしています。1番は、実習で乳児健診や発達相談を見学していたので、就職後にすぐ活動しやすかったです。◆災害対策／災害研究会で被災後の仮設住宅を訪問したこと、現地の保健師の話を聞いたことで、防災の重要性・平時からの備えの大切さが身

に染みて分かりました。災害の少ない地域では、システムが未構築のため、小児慢性特定疾病児の備えを行なっています。◆コロナ対応／英語が話せることで、英語しか話せない外国人への対応ができています。実習で高齢者のアセスメントをしていたので、電話対応だけでも、緊急度のスクリーニングができるようになっていました。肺炎になっているかなと思って受診勧奨したら、本当に肺炎になっていることが多々ありました。学生の時に、様々な分野の学びを得ること、大学生活で地域とのかかわりを持つことは、大きな財産になっています。《R3卒業、保健師、よっしー》

- 12) 学生時代に学んだ地域に密着した看護を活かしながら、現場で頑張っています。今でも大学の頃の友人たちとの繋がりがあり、

看護栄養学部として4年経った今、様々な人々との交流が学生のかげがえのない財産になると期待しています。《H30卒業、兵庫・病院勤務、あっきーな》

- 13) 在学時から盛んに行っていた地域交流に加え、Zoomで学生主体のセミナー開催等行っていてコロナ禍の中でも地域との繋がりを大切にしているのだと思って見えています。また近くに大きな体育館が出来るとのことなので大学主体のイベント等が更に増えること期待してます!! 《R元卒業、いずキャン最高》
- 14) 在学中は、いつでも自習ができる環境が完備して、地域に根ざしたカリキュラムもあり、充実した学生生活を送ることができたと感じています。《H31卒業、県内会社勤務》
- 15) 私たちが在校している頃から十分な広さの施設や物品で学習することができていまし

た。看護栄養学部となり、様々な職種を志す学生が同じキャンパスで学ぶことで、さらに多くの視点で医療福祉について考えることができるようになってきているんだなと思います。また、学生ラウンジ等も以前と比べてさらに充実しており、学びやすい環境が整っているなど感じます。《H30度卒業、滋賀県立学校勤務》

16)卒業してからも気軽に相談できる同級生はもちろん、先輩、後輩、先生方との出会いは宝物です。こんなに心強い仲間作りができた大学を誇りに思います。《H30卒業、県外出身県外勤務》

17)チューター制度があり、先生に相談しやすい環境があることがいいと思います。図書館もきれいで、専門書はもちろんそれ以外の本もあり使いやすいです。食堂も新しく

なり綺麗になりましたが、もう少し値段が安くなれば学生にはありがたいと思います。コロナ禍では地域の人から支援物資をいただくことができるとても助かりました。《R3卒業、県外病院看護師勤務》

- 18)在学中から地域での学習やボランティアをする機会がありましたが、希望制で決まったメンバーで行うことが多く、また参加者が少なかったりします。社会人になった今、地域に溶け込んで行う行事や活動はとても貴重な機会です。在学中に多くの学生がそのような経験が積めるとよいと思います。《東京・保健師、ひなちゃん》

- 19)先輩後輩の距離が近く、自然の中でのびのびと学べる環境でした。他の大学にはない独自のカリキュラムも魅力的で大学時代は勉強だけでなく、アメリカ研修やボランティ

ア活動など様々なことを経験できたところは  
今となっても財産となっています。《H30卒  
業、今が楽しすぎるNs》

20) 4年間学生寮で生活していました。食事が  
出ることや、大浴場で毎日湯船に浸かれるこ  
とが有り難かったです。実習期間は特に、助  
かりました。(共同生活だからこそその制約も  
ありますが…)学内に花や緑がある、明るい  
学内(採光、配色等)で、清潔が保たれている  
ことで、気持ちも明るくなり、学習意欲も高  
まるような気がします。他学部、他キャンパ  
スの方との交流をもっと増やせたらよかつ  
たと思います。《R2年度卒業、県内病院勤務》

21)健康栄養学科の人たちと、講義やフィール  
ドワークで交流する中で、別の職種の見  
点から見た意見を聞いたことは良かったと思  
います。また、健康栄養学科の友人もでき

たので良かったです。ただ、3～4年生では、普段の講義などで健康栄養学科の人と交流することが無くなり、せっかく交流を深めていたのにもったいないなと思いました。《もろこし次郎》

22)もともと看護学部のみで、人数が少なく感じていました。その後、健康栄養学部ができ、学生の数が増え、学校により活気があふれていました。ただ他の学部との関わりが少なく感じたので、何か交流等があると良かったです。大学の設備等は充実していて、とても学びやすい環境でした。《R2卒業、県内グループホーム勤務》

23)コンビニやスーパーが近くにできて、買い物しやすくなりました。しかし、道路の灯りが改善されつつありますが、まだまだ暗いと思うので、防犯対策・事故防止の思

いも込めて、もう少し明るくなってほしい  
なと思います！人数も少なく、男女比も激  
しいのは仕方ないと思いますが、他大学と  
の交流する機会をもっと増やしていけたら、  
より大学生活が充実するのではないのかな  
とも思います。《ミゲル》

24)健康栄養学部になったことで、他学科との  
交流が以前よりしやすくなったのではない  
かと思います。健康栄養学部となり、大学近  
辺に建物が増えたことで、在籍していた頃よ  
り、防犯面で安心して大学生活が送れると思  
いました。《H30卒業 県外クリニック勤務》

25)地元に戻り、改めて出雲の風は強いし、虫  
は大きかったなど思ってるこの頃です。私  
の勤めている保健所では、学生実習を受け  
入れていますが、私自身が実習で体験した  
ことと比べると、「えっ、これだけ？」と感



じます。県立大学の実習は、恵まれてたんだと、外に出てから気付きました。要望ですが、自転車置き場を増やして欲しい。栄養学科が増えて、在籍時は自転車がいっぱいになっていました。《R3年度卒業、県外保健所、バイク乗り保健師》

26)実習や就活、国試勉強など大変なことがありましたが、いつも学生に寄り添って相談に乗ってくださる先生方のおかげで夢を叶えることが出来ました。《H30卒業、会社勤務》

27)県立病院勤務(精神科)です。先輩方には卒業生の方が多くいらっしゃいますが、後輩が少なく寂しいです。病院としても魅力を発信していかなければいけません、精神科への興味や関心が高まる様な働きかけがあればなと感じます。《H29年度卒業、県内病院勤務》

28)近くにコンビニはありますが、学内にコンビニが欲しいです。コロナ禍になってから授業料等、払う額は変わらないのに、アスレチックルームなど一時期使えない場所が多かったり、受験シーズンなのに学習室の使用に制限があったりと不満がありました。コロナ禍で他学年や同級生との関わりが少なくなったので、なにか交流できるような機会がほしかったです。《R2卒、T》

29)同じ職場に同じ大学の先輩や後輩がたくさんいるので、大学生の頃の話で盛り上がります。すぐに仲良くなりなんでも相談することができて楽しく働くことができます。《H30卒業、県内病院勤務》

30)学生アルバイトおすすめです。実習ではわからない看護師の仕事、看護助手の立場から色々見えてきます。《医療職の卵》

## 【付録4】

### 出雲市内コミセンの声

#### 1) Aセンター長

大学主催の講演会などありますが、内容が一般市民には分かりづらいので、分かりやすい、親しみのあるタイトルや内容でお願いします。学生達との交流は、楽しいです。もっと沢山の学生と交流できるようにして欲しいです。少子高齢化が進むので、地域に子どもの姿を見る機会が少なくなっています。是非、遊びに地域へ来てください。

#### 2) Bセンター長

いままでも大学とは、いろいろ関わりを持っている。家庭訪問実習でも受け入れ家庭側も、いい時間になっている。3年次コミュニティ実習では、自治会の加入率をもっと上げるなどの視点が大きすぎると、「なか

なか難しいよね」となり、できないことが多い。実現可能の提案があるとありがたい。今勉強していることを生かした提案がありがたい。

学生にはボランティア活動も是非ともお願いしたい。健康栄養学科においては先生には講座を受け持ってもらいたいと思っているが、学生に食生活について地域貢献的なことをして欲しい。

## 【付録5】

### 県内高校の声

#### 1) A高校校長

現在の県立大学の入試は、高校側との信頼関係が必要。県内高校はそれぞれ特徴があり、どこを目指しているのかはバラバラである。基幹7校は、共通テストを基本と

した進路指導である。探求学習をリードしていく教員は少ない。コーディネーターも少なく、募集しても集まりにくい。現在の勤務校では、共通テストを外した今の入試制度は入学者も確保できありがたい。

県立大学の入試制度は異次元の高大連携であると思うので、お互いの共通認識が必要である。

## 2) B 高校校長

県西部の高校生は保護者が子どもをいったん県外に出す傾向にある。ただ最近は地元志向も増えてきた。地元の高校が県立大学を支えていかないといけない。普通高校は共通テストを目標に進路指導をしている。3年生の担任は1年ごとに変わるので、入試は単純なほうがいい、県大は入試が複雑すぎるとの声がある。一般入試で面接のみ

だと逆転がないので向かわせにくい。資格が取れる大学は魅力的であり、国際コミュニケーションコースで英語の教員免許は取れないだろうか。情報系のコースがあると理系の生徒の受け皿にはなる。学校推薦型選抜で定員割れが起こっていることは承知しているし、どういうコースでどんな講義を県立大学が行っているかも知っている。

### 3) C 高校教員

毎年、たくさんの卒業生を入学させてもらっています！ ありがとうございます。郷土に思いをいたす人材の育成は、本校のミッションでもあり、島根県立大学とともに実現させていかなければなりません。《昔のサッカー少年》

## 【付録6】

### 地域医療機関の声

#### 1) A病院

これからは医療経営が重要となる。県西部の医療には必須である。現場では薬剤師が足りない。

#### 2) B病院

入試での地域枠に助けられている。看護師不足の状況である。在宅医療をしたくても医師不足が根底にある。救急のトレーニングなども本病院で十分にできる。

#### 3) C病院

薬剤師を養成できないか？健康に関わる分野の先生方への要望です。

## 【付録 7】

### 県内外の一般の声

- 1)分析による限られた細部にとらわれ過ぎることなく、生命(健康)に関わるすべての分野とのつながりの中で、生命活動(健康)をWHOLE に捉える研究と教育をお願い致します。 《高貴香麗者80歳》
- 2)今や大学も地域や社会人に開かれ、以前と比べると地域社会に密着してきたと感じます。最近プロ野球監督であった工藤公康さんや歌手の相川七瀬さんなどももう一度学び直すと大学院に通っているという話も聞こえてきます。私も15年前に大学院に社会人入学が決まりその時は道が開かれ、とてもうれしかったことを思い出します。そうなる和我々のような学び直しをした経験者が社会にどのようにかかわり活躍できるか



ということが今後の課題となると思います。

《右腕に日の丸》

- 3)大学自体が一つの街として、多彩な講師の下、本業のカリキュラムを素敵な自然環境の中で、学ぶ。島根の美味しい食事(学食)、島根の地域住民の方との交流、島根の産業に貢献する人材。これらが大学の印象です。

《ロードバイク》


- 4)県外者が多く卒業したら県内に残らず居なくなってしまうことと、コロナ禍になり医療を学ぶ学生さんが1番気を使ってそうです。私の県立大学のイメージです。《美容師A》
- 5)出雲キャンパスの先生・学生さんには、私に関わる患者団体や移植医療啓発活動で何かしらの関わりをいただいております。私がいつも感じていることは、出雲キャンパスの先生・学生さ

んらは地域の人々との距離が近く、親身になって活動をされているように思っております。教員そして学生の皆さんには患者団体「心臓病の子どもを守る会」のサポートをしていただいている、交流会においては、学生さんに子どもたちへの相手をしてもらっていますが、子どもたちは私達大人より馴染むのが早く、安心して子ども達を預けて医師との相談会に集中することができますので、大変感謝しています。



# 山下フィロソフィ

YAMASHITA PHILOSOPHY

- 
1. はじめに
  2. どうしたらできるのか
  3. 会議時間
  4. モチベーション
  5. コミュニケーション
  6. ワンチーム
  7. 創意工夫
  8. 努力と情熱
  9. 基本は現場
  10. 感謝
  11. リスペクト
  12. 選択
  13. 新しいぶどう酒は新しい革袋に
  14. 地域貢献

1.  
はじめに

前段で『島根県立大学☆再チャレンジ計画』の説明をしてきた。京セラを創設した稲盛和夫氏は、京セラを経営していく中で生み出された仕事や人生の指針である“京セラフィロソフィ”を作った。中段では、私感にとらわれず全体を見て、大学にとって一番いい決定をすることが大切であるという心構えで、教職員が一丸となって取り組む指針とすべく、私なりにフィロソフィをまとめた。教職員全員が「指示待ち部下」でなく、「自律型人材」に育って欲しい。

2.  
どうしたらできるのか

アフリカに進出した靴を売るA社とB社の話がある。国内市場が飽和していたため両社は新たな市場を探していた。A社もB社も現地にセールスマンを派遣した。A社のセールスマンは目を丸くして「なんだ、ここは。みんな裸足だから、靴なんか売れるわけがないじゃないか。」そして、会社に電話をして「すみません。ここの市場は全員裸足なので靴なんて売れません。」ということで、この会社は海外進出をさっさと諦めた。一方で、B社のセールスマンは「この市場は無敵大です。全員が裸足なので、みんなが靴を履けばものすごい売り上げになります。さっそく、ケガを防止したり、足の疲れを軽減したりする『靴の効果』を啓発していこうと考えています。」と、本社に連絡した。

学生を地域に送り込むこと、海外に派遣す

ること、いろいろなイベントに参加すること、ボランティア活動など、教員の中には「事故やクレームがあったら、どうするんだ」というリスクヘッジを求める。意見は百も承知、どうやったらできるのかをむしろ教職員には考えて欲しい。その方法を考えることによって、より個人の能力は伸びていく。







### 3. 会議時間

学内の多くの会議時間は、長いというのが皆さんの印象であろう。まず、気を付けて欲しいのは雑談枠にならないことである。そして、こだわりを捨てて欲しい。学内での会議は、標準1時間半までとする。司会者として察して欲しいことは数多くあるはずである。自分の正当性を主張するために譲れないことは十分にわかるが、流せるところは流そう。そうしないと会議が長すぎて参加者も苦痛になる。なんでも反対、納得いきません、ある程度のところで割り切ろう。建設的な提言をしているかどうか、もう一度自覚してみよう。

また会議の開催時間は、できれば金曜日の午後などへ会議を設定するのは止めよう。週末を嫌な思いのまま迎える人もいるかもしれないから。

## 4. モチベーション

最近の脳科学での研究によると、最初に「やる気」は存在しない事が科学的に証明された。すなわち、やる気は行動を起こす要因でなく結果であり、やり始めない限り、いつまでもやる気は出ない。『やる気→行動』でなく『行動→感情を高める』順序であることが、わかってきた。そこで、まずはやってみよう。



## 5. コミュニケーション

あいさつがコミュニケーションの1歩である。そして、雑談をすることも大切だ。常日頃からの対話から仕事や研究のヒントが生まれる。そして、コミュニケーションは進化し、言葉の意味以上のものを伝えることができるようになる。

今から約60年前の1957年1月に日本は初めて南極観測隊を南極に派遣し、昭和基地はできたそうだ。観測隊員は全て屈強な男ばかり、彼らは1年間の過酷な生活を経験しながら観測を続け、当時、日本からの南極への通信手段はなんと、モールス信号であり、それを文字に直していたとのこと。ある日、1人の新婚の隊員に宛てて日本にいる奥さんからのメッセージが届いた。たった3文字のメッセージだったが、それを読んだ隊員の間からは涙があふれた。そして他の隊員たちもその

3文字のメッセージを聞いて泣き始めた。メッセージはこの3文字だった。「あなた」。







## 6. ワンチーム

現在の変化の激しい事態では、ひとりで行動することのあやうさがある。医療もチーム医療の時代である。「早く行きたければ、一人で進め。遠くまで行きたければ、みんなで進め」(if you want to go fast, go alone; if you want to go far, go together)。岸田首相が所信表明演説で語った「アフリカの諺」がある。



## 7. 創意工夫

世界的に有名な文化人類学者クロード・レヴィ・ストロースは隠岐に紀行したことがあるという。そのストロースは『ブリコラージュ』というフランス語を用いているが、これは「ありあわせの道具と材料を用いて何かを作ること」ということである。つまり、そこにあるものを用いて新たなものを生み出すこと、この考え方が教職員全員に必要である。すなわち、教職員には、これまでの業務の繰り返しを行うのではなく、常に刷新する意識を持って欲しい。



## 8. 努力と情熱

常に挑戦して欲しい。例えば、科研費。外部の評価委員から科研費の申請率の低さをいつも指摘される。向上心を持って仕事に取り組んで欲しい。3キャンパスの科研費申請率(新規)は、33.6%である。外部の専門業者による科研費申請書レビュー・アドバイスサービスもしっかり充実させていく。

「ファイト！ 闘う君の唄を～」からはじまるサビの部分は中島みゆきの唄にあるが、「ファイト！ 闘う君の唄を闘わない奴等が笑うだろう」、これを替えると分かりやすい。つまり、「ファイト！ 科研を出す君に、出さない奴等が笑うだろう」。まだ科研費が採択されていない先生へ、今までのことは気にするな、落ちても落ちてもいつか採択され、研究者の扉が開かれる。応援してる。

## 9. 基本は現場



地域に関連した課題は、現場の地域に出かけそして現地の人と話さないと何にもできない。知識社会に入り、人間関係論が見直されている。関係作りに何年も要するが、そのことが10年先のあなたを作る。学びの場をキャンパスの外へと広げていく。

県内の高校生を多くとり、県内の企業などに就職してもらおうと思えば、高校の先生を知り、企業の社長と話し、地元に行き、などしなければ得られない。

書を捨てよ、町へ出よう(寺山修司)。

# 10 感謝

感謝の気持ちをいつも持って欲しい。

戦後まもないころに、ある1人の女子留学生が、ニューヨークに留学したが、途中で重病になり、ロサンゼルス近くのモンロビアの病院に行くように言われた。

モンロビアはニューヨークから特急列車で5日もかかるところにあり、5泊も車中で過ごす彼女は憔悴していた。また、3日分の食料しかなく、パンを買うお金は無かった。車掌が見かねてサンドイッチを持ってきて言った。「君は病気だね。お金はいらぬからこれを食べなさい。」更に車掌はどこまで行くのか聞いた。彼女は「終点のロスで降りて、そのあとバスでモンロビアの病院に向かいます。」と答えた。その列車は特急なので、モンロビアは停車せず一気にロスまで行くことになっていた。車掌は電報で鉄道省から許可を取り、



車内放送を流した。「車内の皆さま、この列車には、病気でモンロビアの病院に行く日本人留学生が乗っております。大変苦しいらしいのです。ロサンゼルスからバスでモンロビアに行くのは、彼女にとって大変なことなのです。そこで、乗務員一同は昨日ワシントンの

鉄道省本部に電報を打ち、彼女のための臨時停車の許可を尋ねましたところ、返事はただいま着きました。『停車せよ』と。『モンロビア駅長への連絡及び留学生のための担架手配は本省がすでに行った』と・・・ですから皆さま、明日の第一の停車駅はロサンゼルスではありません。終点到着が数分おくれることもどうぞ御了承ください・・・」

留学生は感動のあまりに泣いていた。翌朝。閑散とした小さなモンロビア駅には、駅長と、赤十字のしるしの上衣を着た人と、担架とが出ていた。ふり向けば、あの車掌、そして窓と言う窓には顔、顔。「早くよくなるんだよ」「神のおめぐみを・・・」「必ずよくなるから安心しなさい」「元気でね」「勇気を忘れずにね」中の何十人かは手をさしのべて、もう動き出した列車からホームへ名刺などを投げ

た。「うちの番地だよ、困ることや不自由なことがあったらすぐしらせなさい」「私に電話して頂戴・・・」「たずねて行くよ・・・さようなら」10ドル札を投げしてくれた人もいた。彼女は涙で列車が見えなくなった。(引用 :犬養道子、アメリカン・アメリカ、文藝春秋社、1978年より一部改変)

あの列車の乗客たちとの出会いが、きっとその後の彼女を支えていたのだと思う。地域での出会いは感謝の連続、学生にも是非ともその経験や感動を与えよう。



# 11. リスペクト



3 キャンパスともにパワハラ・セクハラもしくはそれに近い事案が発生している。例として現在、医療はチーム医療が基本とされており、お互いの職種をリスペクトしながら、チーム医療を遂行させている。これは医療が従来に比べて非常に複雑化しているからである。

サッカーのルール(競技規則)は17条までであるものの、「最も大切なのは18条」と言われる。ルールがないとスポーツは成立しないが、ルールだけを守っていても不十分であり、勝敗に関係なく、相手を思う「リスペクト」が重要視される。それが、18条である。それゆえ、サッカーの試合では、相手を思いやってボールを外に出す。そのボールを再び相手を思って返す。このような光景を目にすることがある。

大学の中でも職位、年齢、専門分野などに関係なく、お互いにリスペクトしあって高めあおう。

# 12 選択

何かをしようと思っても、心折れることもしばしばある。よかれと思った治療が裏目にてたりすることも経験したことがあった。荒波を乗り越えたあとの達成感は何にもまして素晴らしい快感を感じる。

ビュリダンのロバと言う言葉がある。おなかを空かせたロバが、左右2方向に道が分かれた辻に立っており、双方の道の先には、完全に同じ距離、同じ量の干草が置かれていた場合に、ロバはどちらの道も進まずに餓死してしまう、という意味決定論を論ずる場合に引き合いに出される言葉である。この場合、ロバには、右の道を進み干草を食べる、左の道を進み干草を食べる、立ち止まったままで餓死する、の3つの選択肢が考えられるが、3つ目の選択肢は他者に比べて明らかに痛みが大きいはずだが、最初の2つにはいわゆる

「選択の壁」があり、その壁が餓死という痛みよりも大きかったため、ロバは3つ目を選んだと想定されている。

選択の場面は勇気を持って果敢に挑戦していく。





13.  
新しいぶどう酒は新しい革袋に

この諺は、新しい内容には、新しい形式が必要だ、という意味で使われる。新しい入試改革を始めて県内高校生も多く入学している状況にはあるが、R4年度入試の学校推薦型選抜では5学科・コースで定員を割っている状況である。この明確な理由は分からないが、いつまでもこの状況の推移を見てるだけでは衰退していく一方である。plan B、すなわち、次の手段、次善の策も今から準備もし、切り替えも考えておく必要があるのでは？是非とも新しい考え方で取り組んで欲しい。「新しいぶどう酒を古い革袋に入れてはならない」。

# 14. 地域貢献



『島根県立大学☆再チャレンジ計画』の説明の中にも組み込まれているが、県内の高校生を多くとり、県内の企業などに就職してもらえるのが一丁目一番地。これまでの県立大学の入試の大まかな分析では、県西部の高校生が松江・出雲キャンパスに志願することが少ない、逆に県東部の高校生は浜田キャンパスに志願することが少ない。

もちろんその大学の特色・魅力度、難易度などの影響も大きいですが、島根県の西部、東部に分けて考えるなら、地政学が影響しているとかねてより思っている。地政学とは「ある地理的条件の場所ではどういう人間活動のパターンが繰り返される傾向にあるのか」を発見する学問。

昔、島根県の西部は毛利氏の支配下であり、広島への流れが強い、更に浜田道にて現在も

広島までの移動は、松江までの移動よりは比較的容易である、日照時間も西部は東部に比較して若干長いなどがある。これらのハンディもあるが、それを乗り越えこれをみんなで志願者を増やすにはどうしたらいいのか考えよう。



殘月



## 1. はじめに

「残月」とは、明け方まで空に残っている月のこと。「有明月(ありあけづき)」とも呼ばれ、古くから、短歌や俳句にもよく詠まれている。前段で『島根県立大学☆再チャレンジ計画』、中段では、山下フィロソフィを、そして最後に残月と称して出雲キャンパスのみの歩みをまとめた。残月はいわばこれまでの足跡として記載しているのでご了解いただきたい。

## 2. 短期大学部看護学科から看護学部看護学科

H21年4月に島根県立大学短期大学部副学長を拝命して、まずは4年制の看護学部を作ることが一番の優先度の高い仕事であった。

当時は県内に島根大学医学部にすでに4年制の看護学科があったので、反対論が圧倒的に多かった。その反対論の中には3年制の看護師養成学校が東部からなくなるために、高校生の選択肢がなくなるというものもあった。そこで滋慶学園にお話しして出雲医療看護専門学校が開校するとのお返事をいただいたことも一生忘れないいいタイミングではあった。

看護から看護学への流れがあり、多くの公立短期大学の看護学科は一気に4年制へと衣替えをしており、H21年時で看護学科3年制のままであったのは、本学も含めて残り4校であった。なお、これら残りの4校のうち、新見公立短期大学はH22年に4年制化、京都市立看護短期大学は廃校、そして川崎市立看護短期大学はR4年4月に川崎市立看護大学として開学し全ての公立短期大学が4年制化

となった。

H22年4月初めに4年制の検討を始めるように言われたものの、4年制に向かって教員の募集が一番悩ましいところであった。そのため同年5月には廃校になる京都市立看護短期大学を訪問したことも今となってはいい思い出。しかし、島根医科大学(現島根大学医学部)の同級生や当時の島根県立看護短期大学卒業生などが参集してくれ、少しずつ目途がきつつあった。わずか数か月しかない中であったが、県庁側が教員の準備状況を確認されて同年6月に3年制から4年制の看護学部になることが県から発表された。同時に学部設置の趣旨も多くの皆さんのお世話になり、書き上げていただき、翌年3月に文科省に設置認可を申請、H23年8月に認可が降りた。その時の感動、何とも言えない高揚感、達成感、参加し

てくれた教職員の顔は未だに忘れられない。

ボウフラが 人を刺すよな 蚊になるまでは  
泥水飲み飲み 浮き沈み。

### 3. 大学院修士課程を設置

さらに、その4年後の完成年度を迎えるタイミングで大学院修士課程も設置を計画した。大学院教員は文科省の教員審査があり、学部設置よりさらにハードルは高い。すなわち、12人の看護研究を指導できる教員を集める必要があり、当初、「Mマル合6人、合6人は集まるのか」「どうせできはせんでー」「誰が学内でマル合ですかね」と言われたこともある。また大学本部の同意も難しいものがあった。しかし、これに関しては秘策を以前からずっ

と持っており、実はMマル合教員集めを水面下で少しづつ行っていて、タイミングを見計らって勝負をかけるつもりであった。あの頃、何回中国山脈を越えて山陽方面に赴いたであろうか。季節が移り変わりながら、教員候補の方々に赴任していただきたいと口説いたことはいい思い出ではある。瀬戸内の海をみながら、どうやったら大学院ができるのかひとりたたずんでいたこともあった。しかしその努力のかいもあり、外部からの先生の招聘が功を奏してほとんど文科省からの意見もなく設置ができた。

多くの公立大学看護学科では修士課程を備えているところが現在ほとんどであり、なんとか研究面(院生の多くは学び直し)でも大学院を持つ大学へと本格的に生まれ変わっていった。

アスファルトに咲く花のように。



## 4. 大学院博士課程を設置

大学院修士課程ができてそして3年後に博士課程の設置となった。これには、修士課程よりもDマル合6人、合6人の業績審査は更に難しくなる。そのためか、国公立の看護学科でさえも、大学院博士課程があるところは約半分以下で、高いハードルではあった。また本学在職していて当てにしていた先生で、直前に退職し異動した先生も出たり苦勞の連続であった。最初の文科省の意見では教員が足りてないとのことで絶体絶命の中、幹部の教職員がチームワークを組んでこれを乗り越え、無事に設置認可が降りたことも素晴らしい思い出ではある。

更に、博士課程の教員の中に完成年度を迎える前に途中退職される先生方がいてこれに

も大変に苦勞もしたが、多くの教職員が支えてくれた。そしていよいよR4年度に本学初の博士号を出す予定にある。

山上 山また山。

## 5. 大学院実践者養成コースを設置

大学院実践者養成コースとして助産師養成と診療看護師(NP)養成も加わり、前者は別科と共同で行うこともあり、全国初の2本立ての助産師養成が整備された。今後同様の形態(別科と大学院での養成)は福島県立医科大学でも予定されているとのことである。大学院は2年コースであり県外に戻る学生もいるが、別科は1年コースで県内に就職する学生も多い。

診療看護師(NP)はNP教育大学院協議会が認

めるNP教育課程を修了し、NP資格認定試験に合格した者で、患者のQOL向上のために医師や多職種と連携・協働し、倫理的かつ科学的根拠に基づき一定レベルの診療を行うことができる看護師とされている。まだ診療看護師(NP)養成課程を持っているのは全国で13校であるが、今後R6年開始予定の「医師の働き方改革」にて、時間外労働上限規制が設けられることや医師不足などとも関連して大きな成長分野になるとと思われる。

## 6. 看護栄養学部健康栄養学科

日本の医療現場では管理栄養士の役割が次第に大きくなりつつある。すなわち、チーム医療が現在の医療の基本をなしており、メディ

カルスタッフ(医師、看護師、薬剤師、臨床検査技師、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、管理栄養士など)としてそれぞれの役割を果たしている。

なぜパンダはササだけで筋骨隆々の身体になり、コアラもユーカリしか食べなくても可愛い体つきになれるのか？その理由は、体の中にそれらの動物が持っている特殊な酵素により、筋肉やビタミンに変換できるようになっているからである。しかし、人間にはそれらが無いので、多種多様な食事が必要になり、そこに栄養・食事の重要性がある。

かつて、日本人は食糧不足や主食偏重の食生活のために、各種の栄養失調に悩まされていた歴史がある。しかし、その後の経済状態や食糧事情の好転、さらに栄養教育の普及により栄養状態は大きく改善した。すなわち

従来の日本食に、高エネルギー・高脂肪の欧米食が導入され、多くの栄養失調は解決し、さらに体格も非常に良くなった。しかし一方では、近年、肥満、脂質異常症、高血圧、糖尿病、動脈硬化等の生活習慣病が増大してきた。その理由として過剰栄養や食品選択の偏り、さらに不規則な食生活が挙げられている。

H30年4月より4年制の健康栄養学科において山陰唯一の管理栄養士の養成課程を設置することになり、そしてR4年3月に初めての卒業生を輩出した。

## 7. 認定看護師の養成

認定看護師というのは、「特定の看護分野において、熟練した看護技術と知識を用いて、

水準の高い看護実践を行い、看護現場において看護ケアの広がりや質の向上を図る」ために、H7年11月から始められた日本看護協会が認定する資格制度である。認定看護師の領域は感染管理、皮膚・排泄ケア、緩和ケア、認知症看護など21領域に設定されており、本学では認定看護師の教育課程を、島根県の委託事業としてH28年に緩和ケア分野の課程、H30年に認知症看護分野を開設した。さらにR5年4月より同じく県の委託事業として感染管理分野の認定看護師の教育課程を開設することとした。

現在のところ、多くの病院では感染対策チームを多職種で構成し、チームで活動することが基本になっている。そして感染管理認定看護師は、そのチームのリーダーとして活躍することが求められている。感染管理認定看護

師は、データなどの根拠をもって感染対策を行うことで、治療や看護をより良い方向に導いていけることに魅力を感じている。修了生には早速新型コロナ対応が待っているとは思いますが、しっかりとこの方面のエキスパートを育てていく必要がある。



## 発刊に寄せて

18歳人口が次第に少なくなってきており、定員割れを起こしている私立大学も多い。本学も含めて全国的にも改めて各大学の特色作りを見直しながら組織力を高め運営を考える時期に来ていると思う。

県立大学の役割は何かという原点に帰り、教職員全ての構成員のベクトルを合わせる必要があり、本書『羅針盤』として刊行した。全員が同じ方向へ進めば、何倍もの力になり大きな成果を生み出すことも可能である。

そこで本書は、まず『島根県立大学☆再チャレンジ計画』として、清原理事長・学長が行ってきた6年間の取り組みを踏まえ、地域の課題解決に立ち向かう地域貢献日本一の大学としての方向をこの計画は進化させたものであり、中段は私が石西厚生連津和野共存病院長、島根県立大学副学長、学長代行などの経験を通して思ったこと、感じたことを『山下フィロソフィ』としてまとめた。そして最後は『残月』として出雲キャンパスでの在職中の足跡を書き残した。

『島根県立大学☆再チャレンジ計画』においては、記述面で若干出雲キャンパスの関連事項も多くなったが、3キャンパスの記述が平等になるように今後努力していく。ただの理想を語ったということにならないように県立大学を島根県の役に立つ大学へと導いて行きたい。

誰も見たことのない、まだ見ぬ世界を一緒に見に行こうではないか！

R4年12月吉日

島根県立大学学長代行 山下一也





【略歴】 やました・かずや 医学博士、専門分野は神経内科、神経心理学。島根医科大学医学部卒業後、H3年にカリフォルニア大学デービス校神経科研究員として留学。H6年から石西厚生連津和野共存病院院長、その後、島根県立大学出雲キャンパス副学長などを経て、H31年4月から島根県立大学学長代行。

「内科診断学」(医学書院)など著書多数。現在、エフエムいずも80.1MHzにて「IzuキャンLife」(毎週金曜日午後8時半～9時)を担当。山陰中央新報「談論風発」を担当。

## やいのやいのの歌

作詞 山下 一也

作曲 北山田 登朗

北山のふもと 斐伊川のほとり  
看護の学び舎で 激しくも暖かい  
やいのやいのと言い合って  
過ごす月日の素晴らしさ  
ああ 看護の心はここに宿る

そよ風が運ぶ つわぶきの香り  
思い出す 学園祭を 楽しくも暖かい  
やいのやいのと言い合って  
友と過ごした素晴らしさ  
ああ 看護の心はここに宿る

北山にかかる 雲たなびきたる  
梅の花 咲くころに 学び舎をあとにする  
やいのやいのと言い合って  
夢と未来を育みつつ  
ああ 看護の心はここに宿る



実際の歌はこちらから



# 羅針盤

島根県立大学☆再チャレンジ計画・  
山下フィロソフィ・残月

R4年12月20日 発行

〒693-8550 島根県出雲市西林木町151

TEL 0853-20-0200 FAX 0853-20-0201

著者：山下一也

印刷・製本：株式会社オリジナル



山下 一也 やました・かずや

【略歴】

医学博士、専門分野は神経内科、神経心理学。島根医科大学医学部卒業後、H3年にカリフォルニア大学デービス校神経科研究員として留学。H6年から石西厚生連津和野共生病院院長。その後、島根県立大学出雲キャンパス副学長などを経て、H31年4月から島根県立大学学長代行。

「内科診断学」(医学書院)など著書多数。現在、エフエムいずも80.1MHz(こっ)「IZUキャンライフ」(毎週金曜日午後8時半～9時)を担当。山陰中央新報「談論風発」を担当。

